



木造建築会社A社が木のストローを開発



- 【目的】①適切な森林管理・保全による減災
②プラスチック利用削減による海洋環境改善
③間伐材リユース
④森林・木材の持続可能な利用

【製品】大工仕事のかんな掛けで間伐材を厚さ0.15ミリに削った「削り華(けずりばな)」を専用糊を塗りラセン状に巻いて作成
試作過程で匂いや味までチェックし、スギがベストと判断、糊も身体に無害なものを選択、第三者機関で安全基準に適合する事を確認

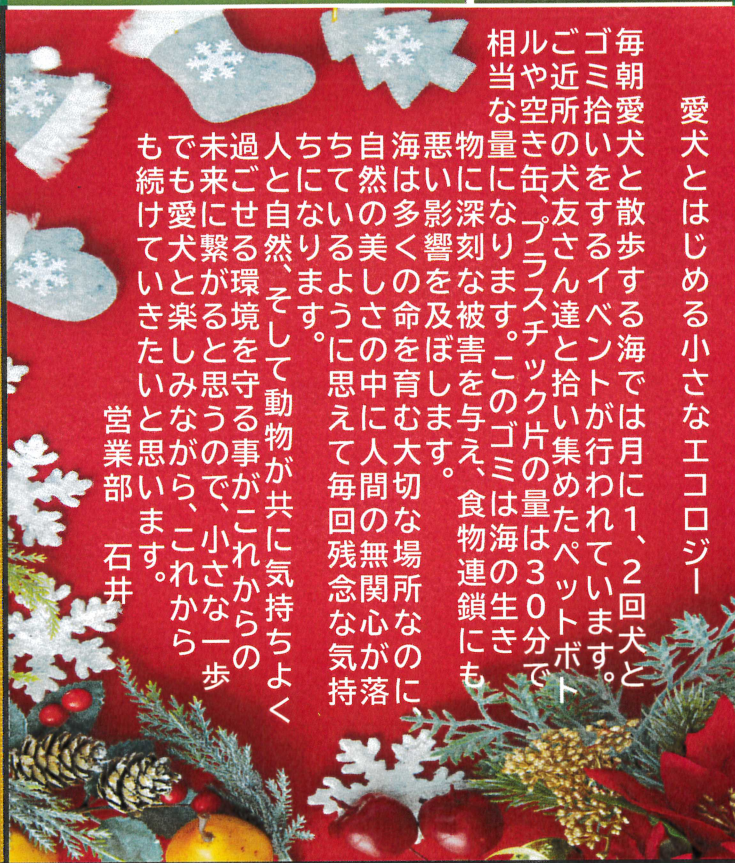
【経緯】徐々に社会の理解が得られ、都内ホテル・成田空港・2019年日本初議長国のG20・2022年ドバイ万博日本館のVIP記念品となりネット購入可能

【展望】作成工程は容易なので、シルバー人材・障害者雇用機会の創出も叶い、大量生産の為行政を巻き込んだ地産地消のサイクルを構築していく
例:自治体水源林の間伐材を使用⇒地域障害者が作成⇒地域ホテルで製品導入⇒使用後は敢て可燃ごみとする事で循環が生じる



でも、未過人ち自然海悪物量ご相
も来ごにてははいにきや近の拾愛犬と毎朝
続愛にせなる多はいにのい犬と拾い
けて犬繋る美く影にのををを歩
てとが環しよの響を深ををを散
いき楽と境さのををををを歩
たいし思守ののををををを歩
いみなうの事動及被す。このは海
と思ながら、が共与え、はの生
います、で、に気、え、の生
ます、こ、持、え、の生

営業部 石井



「人間というサルはなぜ地球を破壊し続けるのか」

元京都大学総長、現総合地球環境学研究所 所長 山極 壽一氏によるウェビナー

霊長類は「消化能力・繁殖力の低さ」が他のサルより弱みであったが、それを強みに変化させるべく体を大きくし、直立二足歩行での狩猟生活を行い、得た食料は持帰り分配し集団で食べた
やがて情報共有、共感、共同保育の文化が生まれ言語が発達、知性の向上が促され人類は進化の勝者と思い込んだ

この思い込みが食料生産、新エネルギー獲得、無限に成長する経済システムを促し、人類は時間をも含めそれら全てを欲望のままにコントロールするに至り、それが地球環境への負荷を増大させた
更に通信情報革命により、人類は己による地球環境破壊に気付いたが、これまでの政策が奏功していない

奏効しない理由は？

- ・考察不足
- ・問題設定方法
- ・経済との両立
- ・生産性、効率性、技術優先の呪縛

改善アイディアは？

- ・住民によるオーバーツーリズムにならないエコツーリズム
- ・手工芸センター
- ・フェアトレード
- ・世界遺産モニタリング
- ・自然保護教育

コロナ後の社会に必要な事は？

- ・緩衝空間としての生態系を海と陸の境界に設け自然災害を防ぐ
- ・生物、環境衛生に関する横断的課題に対し関係者が連携する
- ・里山の再利用
- ・分散型居住の推進と地域づくり・暮らしの価値づくり

社会貢献活動

～初めの一步は小さくとも いつか大きな流れに～

駿河湾 深海1383m

何の写真が分かりますか？

袋は微生物に分解されず

深海に漂うプラスチック
永遠に消えません

三陸沖 日本海溝 深海5347m

駿河湾 深海1388m

マイバッグ持参で出掛けませんか？

画像:JAMSTEC

三機システム工業
年末年始休業日程
2025/12/27-2026/01/04
来年も宜しく
お願い致します

